



## タンザニア

# BOP層実態調査レポート

- 調査実施日：2012年9月
- 調査場所：ダルエスサラーム市内の薬局、ドラッグストア、伝統薬販売所(路上)、キオスク、スーパーマーケット等
- アンケート：回答総数24
- ヒアリング：2名(男性43歳 警備員 既婚 子供3人、女性25歳 会社員 未婚)

### 販売の規制等

薬、化粧品などの小売や卸売をするためには、Ministry of Health and Social Welfare の下部の機関である Tanzania Food and Drugs Authority (TFDA) の許可を得る必要がある。申請が許可されても1年ごとに更新しなければならない。申請料は、薬の卸売は年Tsh20万(約1万円)、化粧品の卸売はTsh12万(約6,000円)、小売りはTsh6万(約3,000円)である。薬は薬剤師の管理下以外では売ってはいけないということが、The Tanzania Food and Drags and Cosmetics Act 2003で定められている。

### 販売場所

#### 薬局

街中の薬局では、薬のほかにもシャンプーや歯磨き粉なども取り扱っている。ダルエスサラームの街中にある薬屋で、一番人気の商品はムセト(mseto)というマラリア治療薬であった。ムセトにも各種あるが一番売れているのは、インド製のムセト(24錠で3日分。3歳、体重5kgから服用可能)、Tsh1,000(約50円)である(政府が補助を出して価格を安く抑えている)。それだけマラリアにかかる人が多い。医者の方箋がなくても販売するという。扱っているのは、インド製の薬が多いようだ。薬のばら売りはしていない、とのことであった。購入は問屋を通して行っている。



ダルエスサラーム街中の薬局



#### キオスク



キジトニヤマ地区のキオスク、販売員の頭の上の棚に体に塗るオイル、その上の棚に生理用品が並ぶ

キオスクでも薬や化粧品を取り扱っているところも多い。キオスクは、薬や化粧品の販売許可を得ていないところがほとんどと思われる。しかし、ファーストエイド的な鎮痛剤や咳止めなどの薬の販売は、運用として、当局からも目こぼしされていて、役人が視察に来ても咎められることはないようだ。しかし、ムセトなどの(本来ならば処方箋のいる)薬品は取り扱うことはできない。スーパーマーケットでもそういった鎮痛剤や咳止めなどを取り扱っているところがある。

ダルエスサラームのミコチェニ地区にあるキオスクで、薬でよく売れるのは、パナドール(Panadol)という鎮痛解熱剤である。



1錠Tsh100(約5円)で2錠を一度に服用する。2錠単位から販売している。ケニア製である。他にも咳止めCoftaなど、普段のちょっとした病気に必要なものを小さな単位から販売している。

鎮痛解熱剤のPanadol



スーパーマーケットの薬品コーナー

#### ドラッグストア(化粧品店)

訪問したダルエスサラーム市内のドラッグストアでは、化粧品の他にミネラルウォーターや紅茶の葉、食用油、粉ミルク、缶詰類なども置いてあった。TFDAの食料品と化粧品の小売の許可を得ているようだ。売れ行きの良い化粧品は、香水とローション、オイルだという。

香水は、一番高いのはTsh2万(約1,000円)のものだが、よく売れているのはCatheberineという商品名の一番安い100ml入りTsh3,500(約175円)(アラブ首長国連邦製)のものだそうだ。

ローションでは、レブロン(L'Oréal)の600ml入りTsh6,000(約300円)(スペイン製)であった。こちらの人はシャワーの後に赤ちゃんから大人に至るまで体にオイルを塗ることが多い。皮膚の乾燥を防ぎ、清潔感を保つためだろう。人気のあるのは、ワセリン(Vaseline)250g、Tsh4,000(約200円/ケニア製)、ベビーケア(Baby Care)500g、Tsh3,500(約175円/タンザニア製)だそうだ。

ワセリンの方がハードで、防寒目的で使われることもあるという。そのため、北部などの高地ではベビーケアよりもよく使われているようだ。ベビーケアはソフトなのでダルエスサラーム地域ではこちらの方がよく使われているという。ベビーケアの一番小さいサイズは25gでTsh300(約15円)である。購入は問屋を通して行っている。



ダルエスサラーム市内のドラッグストア





ダルエスサラーム街中の伝統薬売り

#### 伝統薬

街中の路上では、伝統薬も売られている。マサイ人の販売人によると、病院に行って薬をもらったけれど治らないので、伝統薬を求めに来る人が多いという。木の皮を粉にして飲んだり、皮膚にすり込んだりする。惚れ薬(媚薬)のようなものも売られているが、鼻づまり、気管支炎、生理痛などに効くという実用的なものも扱っている。粉にしたものが大さじ半分でTsh4,000(約200円)からと、あまり安くはない。販売人自ら森に薬になる木の皮や根を取りに行き、販売しているそうだ。販売許可は特に必要ないとのこと。

#### 販売製品

##### 人気の薬

大人、子どもに関わらず、Panadolはよく使われている。ダルエスサラーム郊外の小さなキオスクでも他の薬はなくてもPanadolだけは置いてあった。手軽に購入できる場所がいいのだろう。子ども用のシロップのPanadolもある。マラリア治療薬のムセトも使用頻度が高い。伝統薬の人気も高い。アンケート(総数24)でも半数以上の13人が伝統薬を使ったことがあると答えていた。モリンガやムアロバイニ(スワヒリ語で40の効能があるという意味の木、一般名はニーム)など樹木、植物由来のものが多い。マサイ人の薬売りから買ったり、自分で作ったりもする。

##### 化粧品

日本のようにフルメイクをしている人は都会の若い女性にも少ない。しかし、20代の若い世代は上の世代よりも化粧品に興味があり、口紅などを購入しているようだ。アンケートでは、口紅(Tsh1,000~2,500、約50~125円)をよく購入するという女性が多かった。その他、顔につけるローション(Tsh1,000~6,500、約50~325円)、洗顔料(Tsh2,000~5,000、約100~250円)などが用いられていた。ファンデーションなどの需要はまだあまりないようだが、爪や手に植物製の染料ヘナを使って飾ることもある。化粧品を全く使わない女性でも、ベビーケアなどの体に塗るオイルは欠かせないということである。

##### 生理用品

人気商品として上がることはなかったが、生理用ナプキンが街中のドラッグストアでは、店先のショーケースに並べられていたし、郊外の小さなキオスクでも扱われていた。alwaysやfreestyleという商品名の中国製で、タンザニアでパッキングされたナプキンが手頃な値段(8~10個でTsh2,000(約100円))で出回るようになった。薄手で品質も悪くない。前者は商品名がそのままナプキンの代名詞にもなっているようだ。従来は生理時には布が使われてきた。現在でも農村部はもちろん、都会でも布の方がいいと布を用いている女性も結構いるようだが、安価で使いやすい使い捨てのナプキンが広まれば、需要が増えてくるだろう。



JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。